

ベラウ共和国における古典歌謡の継承

平成 19 年入学

派遣先国：ベラウ共和国

紺屋あかり

キーワード：古典歌謡，文化遺産，知的財産，継承，声の文化

対象とする問題の概要

古典歌謡は、無文字社会における民族の叙事詩あるいは歴史書として口碑伝承により代々受け継がれる声の文化 [オング 1991] である。しかし近年、一部の地域では、グローバル化に伴う母国語の衰退や外来文化の介入などを背景に民族固有の古典歌謡が「消えた遺産」として報告される例も少なくない [畑中 1990]。そうした古典歌謡や踊りなどをはじめとする無形文化の危機的状況を受け、2003 年第 32 回ユネスコ総会において「無形文化保護条約」が採択された。以来、古典歌謡の歌詞収集やワークショップの開催など、無形文化保護活動が世界的に実施されるようになり、無形文化の継承は今日における重要な課題として認識されはじめた。

研究目的

本研究の対象であるベラウ古典歌謡は、現在もベラウ社会に維持される固有文化である。衰退危機にある他地域の古典歌謡文化の状況からみても、ベラウ古典歌謡文化の現存は貴重な文化遺産であるといえる。今回の調査では、ベラウのこれまでの度重なる社会変化の中で彼らがいかに古典歌謡文化を維持してきたのかについて、特に古典歌謡文化の核となる歌詞継承に着目し、①統治期と②独立以降の近代期に分けて継承形態の変容を追った。

① 統治期：1891 年～1994 年（統治国／スペイン、ドイツ、日本、アメリカ）

②独立以降：1994 年～現在



【写真 1】聞き取り調査風景
(ババルダオブ島ガラロン州)



【写真 2】古典歌謡の名歌手 Diraiibuh 氏
(コロール島コロール州)

フィールドワークから得られた知見について

2011年1月～3月ミクロネシア諸島ベラウ共和国で実施した調査方法は以下の通りである。①統治期については歴史家(ベラウ全16州に各1名,政府に任命される伝統的知識の語り手)への聞き取りから,②独立以降については20代～90代の男女20名への聞き取りから分析を行った。調査の結果,以下の2点が明らかとなった。

- (1) 聞き取りから,ベラウ古典詠唱歌の歌詞継承は,個人と出身村落間における互酬性のもと実践されてきたものであることが分かった。同村落・クランメンバー間での1対1の個人指導型継承スタイルが厳格に保たれ,歌詞は村落に帰属する財産であるという認識のもと,歌詞と土地との密接なつながりによって維持されてきたという背景を持つ。既存研究では,村落内で社会的立場の高い者がより詠唱実践に通暁している[山口 1990]ことや,社会的立場に沿った歌詞継承の実践[Abels 2008]が指摘されてきた。つまり歌詞継承は,村落・クラン内での権力体系と密接に関係して行われるという特質を有してきた。
- (2) しかし,現代の歌詞継承を詳しく検証すると必ずしも村落メンバーへの継承に限定されていない状況が確認された。各事例からは,婚姻後の移住先村落コミュニティ内での継承や,地縁・血縁関係のない知人への継承などの実践が多くみられ継承形態は多岐に渡っていた。また,個人指導型の継承スタイルはほとんどみられず,複数人から歌詞を学ぶ方法へと移行していた。更に,伝統的称号の有無に関わらず継承が実施されており,社会的立場の高い者だけでなくより多くの人へ開かれた継承の場が提供されていることも明らかとなった。つまり,(1)で整理されたような出身村落・クラン内での互酬性に限定されず,現在の歌詞継承はより拡大された社会関係のもと実践されるものへと変化していることが分かった。



【写真3】 伝統的集会所アパイの改築祝いで古典歌謡詠唱風景

(バベルダオブ島アイメリーク州)



【写真4】 ベラウ最南端の離島

(アンガウル島アンガウル州)

今後の展開・反省点

調査結果から、ベラウ古典歌謡の歌詞継承は親密な地縁・血縁関係のもと秘伝される形態から公共性を帯びた新たな継承形態へと変容していることが明らかとなった。しかし今回の調査結果からは、なぜ継承形態が変容したのかについて詳細に描くことができていない。また、ローカルな歌詞継承のみを検証したため、政府レベルでの伝統文化保護政策に関する分析が十分に行えなかった。そのため今後は、ベラウの社会的背景と合わせて歌詞継承の変容をみる必要がある。以上の点を課題とし、外来文化との接触、特に統治経験がベラウ古典歌謡文化やその継承に及ぼした影響についての歴史的検証と、近年ベラウ国内で活発化する伝統知識における知的財産権をめぐる議論や政策始動へのプロセスとを合わせて検証し、古典歌謡文化がベラウ社会の中でどのように維持あるいは再定義され継承されてきたのか更に詳しく分析を進める。

[参考文献]

W-J・オング. 1991. 『声の文化と文字の文化』 藤原書店.

畑中幸子. 1990. 「東ポリネシアから消えた文化遺産—消えたチャント—」『中部大学国際関係学部紀要』
vol23, pp. 25-38.

山口修. 1990. 「水の淀みから—ベラウ文化の音楽学的研究—」 大阪大学博士論文学位申請論文.

Abels, Birgit. 2008. *Sound of Articulating Identity Tradition and Transition in the Music of Palau, Micronesia*. Berlin
Verlag Press.